

内水面の環境保全と遊漁振興に関する研究（平成 28 年度） －天然アユの遊漁に関する調査－

久保田仁志

目 的

近年、アユ釣りを楽しむ漁業協同組合員及び遊漁者は減少しており、漁協経営の悪化が懸念されている。¹⁾そこで、アユ遊漁に新たに参入する釣り人を増やす方策を検討するため、参入の障壁となっている事項などについてアンケート形式の意識調査を行った。

材料および方法

アンケート調査 データの収集にあたって、平成 28 年 10 月にインターネットアンケートを実施した。アンケート対象者は（株）クロス・マーケティングに登録したモニターのうち、全国の 20 歳以上 49 歳までの男女とした。調査は次の 2 項目について実施した。

調査① 釣りを趣味とするがアユ遊漁をしない人を対象に、アユ遊漁に対するイメージ、アユ遊漁をしない理由などを聞き、アユ釣りの参入障壁を調べる調査設問（抜粋）

- ・アユ釣りにどんなイメージを持っていますか？
- ・アユ釣りをしない理由は何ですか？
- ・アユ釣りがどんな風に変わればアユ釣りをしたいと思いますか？

調査② アユ釣りを趣味とする人を対象に、アユ遊漁を始めたきっかけ、アユ釣りの楽しさなどを聞き、アユ遊漁の PR のポイントや方法を調べる調査設問（抜粋）

- ・アユ釣りを始めたきっかけを教えてください。

結果および考察

調査①では男性 781 人、女性 219 人から回答を得た。調査②では男性 733 人、女性 267 人から回答を得た。

調査①においてアユ釣りのイメージを聞いた結果、42.1%の人が「面白そう」と回答した一方、「面白くなさそう」と回答した人は 4.9%にとどまった（図 1）。また、「簡単にできそうもない」と回答した人が 56.8%と高い割合でいた。アユ釣りをしない理由について聞いた設問では、「道具を持っていない」と回答した人が 61.4%と高い割合でいた。さらに、アユ釣りがどんな風に変わればやってみたいと思うか、という設問では、「道具や遊漁料が安くなる」といった具体的な要素を挙げた人よりも、「きっかけさえあればやりたい」と答えた人の方が多かった（44.5%）。

調査②においてアユ釣りを始めたきっかけを聞いた結果、79.5%の人が知人や家族などの経験者に連れられて行ったことと回答した（図 2）。

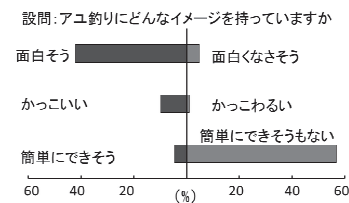


図 1 アユ釣りのイメージに関する回答
（釣りを趣味とするが、アユ釣りをしない人への設問）

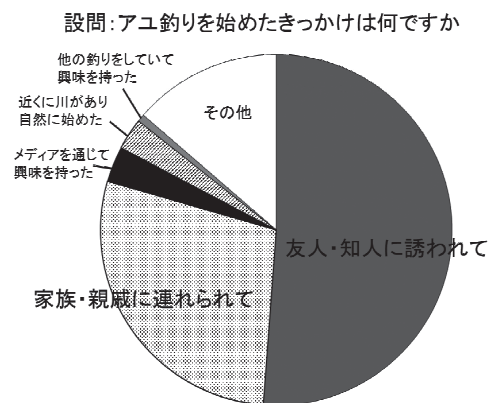


図 2 アユ釣りを始めたきっかけに関する回答
（アユ釣りを趣味とする人への設問）

本調査の結果から、現在アユ釣りをしていない人でも、アユ釣りに魅力は感じているものの、アユ釣りの取っつきづらさ（他の釣りから道具を流用できない、友釣りという釣り方が特殊、道具などの値段が高い、など）を参入の障壁と感じていることが明らかになった。道具レンタルや釣り場ガイドなどのサービスを提供することにより、これらの障壁を解消できる可能性がある。また、きっかけ作りとしては、初心者との同伴者を優遇するなど、既にアユ釣りをしている人を通じて新規参入を促すことが有効と考えられる。

本研究は、（一財）東京水産振興会委託・（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所受託・栃木県水産試験場再委託（受託）の「平成 28 年度内水面の環境保全と遊漁振興に関する研究」の一環として実施した。

引用文献

- 1) 高木優也. アユの釣れ具合と発券枚数の関係. 栃木県水産試験場研究報告 2016; 59: 36-37.

（水産研究部）